

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No..H0402001 修了者No..H0701003 修了者No..H0403040 修了者No..H0202080
評価実施期間	2007年11月27日～2008年3月24日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- 職員の働きがい向上させる人事制度
- 社会参加・社会生活を身につけるための取り組み
- 入所施設医務室の連携による健康管理

✔さらなる改善が望まれる点

- 工房の製品の商品化と販路の拡張
- 作業ボランティア確保に向けたさらなる取り組み
- 各種委員会とプロジェクトの統合の検討を

[このページの一覧上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 個別支援計画に基づき「生活支援プラン書」で課題項目を細分化してプラン内容を明確に... ● 言語でのコミュニケーションが困難な利用者には、にじの会独自の方法で行っている。そ... ● 利用者の自立生活の支援は、社会生活力を身につけるために、養護学校が使用しているデ...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 作業の種目は就労継続的事業(パン製造、豆腐製造、食品加工製造、織物製作)と生活介... ● 利用者への作業工賃が発生する作業は、就業就労的事業の(パン製造、豆腐製造、食品加... ● 利用者の働く意欲と作業能力の向上を得られるために、一階に喫茶・売店「オー・ソレ・...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ● 食事は委託業者が調理し、法人の栄養士が献立を作成している。お互いの連携はタ札や連... ● 毎月の献立委員会を10名の委員と委託業者が入って、①検査の結果等での味付け、基本... ● 食事の安全には十分に気を配り、特に食中毒の防止には最善を尽くしている。厨房での衛...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人は4ヶ所の作業所でトータルサポートを目指した日中活動に取り組んでいる。19年... ● 利用者は自宅や同法人の入所施設・グループホームから通っている。自宅からの利用者は...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら	

- ・利用者の健康状態は年1回の定期健康診断、毎月の体重測定を行い把握している。施設「…
- ・施設の医務室に看護師2名がおり、利用者の通院の付き添いをするなど、1ヶ月の通院受…
- ・服薬管理は利用者から1週間分預かり自己管理はしていない。服薬ミスをなくすために個…

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・未来工房にじでは、入所施設にじの里と合同で多彩な行事を催している。地域行事の（夏…
- ・日々の生活には朝会・日中活動・昼食・帰りの会等をきっちと定めた「作業タイムテーブル…
- ・廊下や食堂の清掃は利用者の整美グループが職員と一緒にいき常に行い常に清潔保持に努めている…

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・19年度の事業計画において、障害者自立支援法での中軽度の利用者にはそれぞれの条件…
- ・年4回の施設家族連絡会があり、制度についての説明を行い意見や要望を聞いている。そ…
- ・「未来工房にじだより」で月の行事予定と前月の報告を掲載して家族に配布している。日…

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・19年度の重点課題として「地域との交流を広げるために文化行事、公開講座、まつり等…
- ・地域の多くのイベントに参加している。第1回から参加の恒例市民駅伝には、チームを組…
- ・地域や関係機関等への啓発活動を行い、毎年一回テーマを決めて公開講座（今件は5年間…

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちら](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読み上げは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
19/39

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	94.0%	5.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	47.0%	47.0%	5.0%	いいえ: 0.0%
3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	94.0%	5.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%
4. 施設の設備は安心して使えるか	94.0%	5.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	63.0%	21.0%	5.0%	10.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	84.0%	5.0%	10.0%	いいえ: 0.0%
7. 職員の対応は丁寧か	84.0%	15.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	57.0%	42.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	88.0%	11.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい: 0.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	73.0%	5.0%	21.0%	いいえ: 0.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	73.0%	5.0%	21.0%	いいえ: 0.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	52.0%	10.0%	36.0%	どちらともいえない: 0.0%

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評価の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 全体の評価講評

全体の評価講評

▼全体の評価講評

▼コメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設〔経過措置〕

[＜前の評価結果を見る＞](#)

[次の評価結果を見る＞＞](#)

事業所名称	未来工房にじ			
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構			
評価者	修了者No.H0402001	修了者No.H0701003	修了者No.H0403040	修了者No.H0202080
評価実施期間	2007年11月27日～2008年3月24日			

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

● 職員の働きがいを向上させる人事制度

職員のやる気と働きがいを向上させるために、人事評価制度において業績賞与や職能人事考課を取り入れている。業績の評価を実施する際、まず自己評価をして、上司との面接にて評価内容について調整を実施して職員の納得を得ている。また、新たに表彰制度が実施され、①勤続5年以上の優秀者、②業務上有益な研究・実践を行った研究功労賞、③法人や施設運営上で功績をあげた運営功労賞が対象となり、表彰委員会が検討のうえ、人事委員会に推薦し決定がされている。

● 社会参加・社会生活を身につけるための取り組み

19年度基本方針に利用者の安全を確保した上で、自立と社会参加への支援を掲げている。その基本方針に基づいて、社会生活カプロジェクトを中心に社会的ルールの意識付けや「社会生活をしていく能力を身につける」を目標にしている。外部販売や購買活動の実施、個人及び小グループでの外出により、個々の社会生活力が身につく支援に取り組んでいる。更に「あいさつ・言葉遣いの心得」にて、挨拶の姿勢や挨拶の意義、話し方の基本や聞き方の基本を謳って、活動の中で「挨拶」を重視している。

● 入所施設医務室の連携による健康管理

医務室の2名の看護師が利用者の病状の悪化を防ぐために年3回「個別栄養所要量計算表」で一人ひとりの栄養所要量を出すことで栄養改善に取り組み早期発見や早期治療に繋げている。また、自宅管理ができるように家族に会って相談や話をしたり、精神面での不安な利用者の家族への相談も常時行って、安心な生活が送れるように支援に努めている。一般的に通所授産施設には看護師が常駐していないが、入所施設と併設のため医務室との連携が取れ看護師の救急対応や健康管理のアドバイスを受けられる。

✔さらなる改善が望まれる点

● 工房の製品の商品化と販路の拡張

未来工房にじにはパン工房、食品工房、織り工房などで商品を製造している。パン工房においては、作業技術力、品質の維持をして定期的な企業への外部販売の確保はしている。しかし、パン工房の利用者がハーモニーへの移行もあり、生産量の減少は必至であるが、さらなる販売活動を行い販路の拡大を図ることが必要である。織り工房には、利用者の生産力が高まりたくさんの製品があり、それを商品化しての販売には至っていない現状がある。今後は、織り生地加工の拡大と販売のシステム作りを行い、利用者のやりがいと喜びを見出す努力が求められる。

● 作業ボランティア確保に向けたさらなる取り組み

ボランティア活動への参加は、にじの会後援会に参加する形を取っている。主なボランティアの内容は、週末整美活動ボランティア・製品仕上げボランティア・芸術活動等ボランティア・余暇活動ボランティア・行事ボランティアがほとんどである。折工房の製品仕上げボランティアはいるが、その他の工房でのボランティア導入への検討も必要かと思われる。

● 各種委員会とプロジェクトの統合の検討を

原則月一回継続的に開催されている11の委員会と8のプロジェクトが設けられて、安全対策や日常のサービス提供の向上に取組んでいる。さらに、施設家族連絡会、ケース会議、フロア会議等数多くの会議がある。多少重複するとみられる委員会やプロジェクトについては、統合などを検討することにより、職員研修時間を増やしたり業務時間の効率をはかるなどの検討が期待される。

[このページの一番上へ](#)

コメント

事前に事業所と評価手法並びに日程等を協議し一連の手順等を計画した。入所施設(にじの里)に併設の「未来工房にじ」と分場「未来工房にじアート」の2カ所のため、2日間の日程で「聞き取り」方式で行った。職員には、職員自身の自己評価分析調査及び利用者調査に係わる一連の説明と協力を求めた。なお、家族に対して、定例の家族連絡会の席上でアンケート調査を依頼し郵送で回収した。授産場所が入所施設併設と他の場所にあるため評価者がそれぞれの授産施設に出向いて行った。また意思疎通を図るため評価者の顔写真入りポスターを掲示した。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼リーダーシップと意思決定

▼経営における社会的責任

▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

▼計画の策定と着実な実行

▼職員と組織の能力向上

▼情報の保護・共有

▼カテゴリー1～7に関する活動成果

平成19年度知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2007年12月10日～2008年3月24日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】詳細はこちら	
- 調布養護学校の親と教員有志が「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場をつくり... - 理事会で決定された平成19年度の基本方針はにじの会の全施設が進むべき方向を示した... - 理事会では基本方針や経営に関する重要事項が、常勤役員会では人事関連事項等が、毎週...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

このページの一番上へ

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら	
- 施設として守るべき法・規範・倫理は法人の職員倫理規定に明示されている。特に、人権... - 知的障害者の施設として、地域の障害者に関する個別の相談を随時受けており、施設の見... - ボランティアの受け入れについてはボランティア受入委員会が中心となって対応している。...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

このページの一番上へ

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A+
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】詳細はこちら	
- 利用者及び家族の意見・要望・苦情等の意向を聞き取り、各施設の支援体制に反映して行... - 社会福祉法人「にじの会」の設立趣旨において、利用者及び家族の意向を取り入れ、多様... - 地域福祉の動向は三鷹市自立支援協議会及び知的障害者施設連絡会や近隣自治体の会議に...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

このページの一番上へ

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A+
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら - 中期計画が求めているトータルケアの地域支援体制の構築に向けて、計画通り平成19年... - 理事会で決定された基本方針と利用者意向の実現や就労支援などの6つの重点課題に基づ... - 安全に対しては、発生した事故の内容を分析して再発防止に努めている。具体的な活動と... 評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A+
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら - 法人が中心となって人事管理制度(職能人事考課・自己申告)が決められて公表されてい... - 福祉業界において人材確保が厳しい中、人材の確保と育成が最重要な課題となっている。... - 職員のやる気と働きがい向上させるために、人事評価制度において業績賞与や職能人事... 評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら - 情報の伝達は朝会にて職員に周知徹底がされている。また、日々の情報伝達は部門におい... - 個人情報の保護に関しては、「利用者の個人情報の利用目的の通知及び第三者に対する提... 評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら ○中期計画(地域展開)に基づいた就労支援事業所ワークショップハーモニーを平成19...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ○法人や施設運営上で功績をあげた運営功労賞が対象となり、表彰委員会が検討のうえ、...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら ○養護学校が使用しているテキストで週1回社会のルール等の学習会を開催した○法人内...	
4. 事業所の財政等において向上している	評点

1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ○通所利用者の通所率向上による収益増○費用の削減(郵送費など)○ショップにおける...	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら ○利用者アンケートの実施、希望旅行先など面接で利用者意向を把握○養護学校等からの...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#)
>
[評価結果検索](#)
>
[評価結果一覧](#)
>
サービス分析結果



サービス分析結果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

[▼サービス提供のプロセス項目](#)

[▼サービスの実施項目](#)

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

[<<前の評価結果を見る](#)

[次の評価結果を見る>>](#)

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2007年12月10日～2008年3月24日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供

評点

1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 都心から西方に約18km、東京都のほぼ中央に位置する閑静な住宅街の一角に3階建て...
- ホームページには施設長挨拶、未来工房にじとにじアートの特色、作業種目、年間行事、...
- 施設の見学に関しては、福祉事務所等の行政機関よりの問い合わせや養護学校や親の会、...

評点の内容
 ▶ [詳細はこちら](#)

サービスの開始・終了時の対応

評点

1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

A

2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 施設では、開設当初から成年後見人制度の利用を推奨しており、家族を中心にした後見人...
- 利用開始時には、利用申込書、健康医療調査表、個別面談記録、前施設や養護学校からの...
- 利用開始直後は、今までとの生活環境が変わり、新しい生活リズムに慣れるために希望す...

評点の内容
 ▶ [詳細はこちら](#)

個別状況に応じた計画策定・記録

評点

1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

A

2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

A

3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

A

4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 個別支援計画の策定は、ケース担当職員が利用者、家族と面談しアセスメント表に基づく...
- 利用者に関する情報や記録は基本的にパソコン上で行っている。施設として利用者の様子...
- パソコン上のシステムで個別支援計画や生活記録を一括管理しネットワーク化され、職員...

評点の内容
 ▶ [詳細はこちら](#)

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評点

1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

A

2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 法人の「職員倫理規定」、「就業規則」に、利用者のプライバシーの保護や個人の尊厳の...
- 利用者の個人情報保護については、サービス利用時に「個人情報保護に関する基本方針」...
- 言語によるコミュニケーションが難しい利用者にとって自己決定を表すことは大変に重要な...

評点の内容
 ▶ [詳細はこちら](#)

事業所業務の標準化

評点

1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

A⁺

2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

A

3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 法人のマニュアル委員会に未来工房の職員が参加して作成したマニュアルが整備してある...
- 法人は多種の外部研修に職員に指示したり参加希望を募り多くの職員が年間を通じて参加...
- 19年の基本方針には「利用者の安全を確保した上で自立と社会参加への支援を進める。...

評点の内容
 ▶ [詳細はこちら](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A ⁺
【講評】 詳細はこちら - 個別支援計画に基づき「生活支援プラン書」で課題項目を細分化してプラン内容を明確に... - 言語でのコミュニケーションが困難な利用者には、にじの会独自の方法で行っている。そ... - 利用者の自立生活の支援は、社会生活力を身につけるために、養護学校が使用しているテ...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら - 作業の種目は就労継続的事業(パン製造、豆腐製造、食品加工製造、織物製作)と生活介... - 利用者への作業工賃が発生する作業は、就業就労的事業の(パン製造、豆腐製造、食品加... - 利用者の働く意欲と作業能力の向上を得られるために、一階に喫茶・売店「オー・ソレ・...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら - 食事は委託業者が調理し、法人の栄養士が献立を作成している。お互いの連携はタ札や連... - 毎月の献立委員会を10名の委員と委託業者が入って、①検食の結果等での味付け、基本... - 食事の安全には十分に気を配り、特に食中毒の防止には最善を尽くしている。厨房での衛...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 法人は4ヶ所の作業所でトータルサポートを目指した日中活動に取り組んでいる。19年... - 利用者は自宅や同法人の入所施設・グループホームから通っている。自宅からの利用者は...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら - 利用者の健康状態は年1回の定期健康診断、毎月の体重測定を行い把握している。施設「... - 施設の医務室に看護師2名がおり、利用者の通院の付き添いをするなど、1ヶ月の通院受... - 服薬管理は利用者から1週間分預かり自己管理はしていない。服薬ミスをなくすために個...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 未来工房にじでは、入所施設にじの里と合同で多彩な行事を催している。地域行事の(夏... - 日々の生活には朝会・日中活動・昼食・帰りの会等をきちんと定めた「作業タイムテーブル... - 廊下や食堂の清掃は利用者の整美グループが職員と一緒に行き常に清潔保持に努めている...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら 19年度の事業計画において、障害者自立支援法での中軽度の利用者にはそれぞれの条件... - 年4回の施設家族連絡会があり、制度についての説明を行い意見や要望を聞いている。そ... 「未来工房にじだより」で月の行事予定と前月の報告を掲載して家族に配布している。日...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら 19年度の重点課題として「地域との交流を広げるために文化行事、公開講座、まつり等... - 地域の多くのイベントに参加している。第1回から参加の恒例市民駅伝には、チームを組... - 地域や関係機関等への啓発活動を行い、毎年一回テーマを決めて公開講座(今件は5年間...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成19年度

知的障害者通所授産施設【経過措置】

[＜前の評価結果を見る＞](#)

[次の評価結果を見る＞](#)

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
利用者調査実施期間	2008年1月9日～2008年2月1日

調査概要

- **調査対象:** 利用者定員39名[男性60%、女性40%、男女平均年齢31歳]は、入所施設に併設の「未来工房にじ」に23名、分場「未来工房にじアート」が16名。基本的に利用者全員を対象としたが、調査当日欠席や利用者意向に沿わない方には無理強いしない人とした。
- **調査方法:** 聞き取り方式
入所施設に併設の「未来工房にじ」と、分場「未来工房にじアート」の利用者は、入所施設「にじの里」の利用者と一緒に、作業並びに日中活動を行っているので、妨げにならないように職員の指示を得て、1対1で「聞き取り」方式で行なった。
- 利用者総数：39人
- 共通評価項目による調査対象者数：19人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：19人
- 利用者総数に対する回答者割合(%)：48.7%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

社会福祉法人にじの会の通所授産施設は、入所更生施設「にじの里(定員45名)」に併設の「未来工房にじ(定員23名)」と、分場「未来工房にじアート(定員16名)」の2カ所に設置されている。この通所と入所の利用者は一緒に作業並びに日中活動を行っている。そこで「聞き取り」調査は2日間の日程で行った。聞き取りの結果からは、「仕事等日常の活動はやりがい・・・」、「必要な時、職員からの相談や支援は・・・」、「施設の設備は安心・・・」の項目に関しては、18名の方が「はい」と意志表示をしており、「洗濯をやっている」、「パンづくり」、「仕事を教えてくれる」、「困ったことはありません」、「あぶないことはない」、「火とガスに気をつけます」など、毎日の仕事を楽しく意欲的に働いている様子が窺われた。一方、「個別計画」や「第三者委員」に関する項目では、「はい」が計数的に低く、「無回答」が高い数値となっているが、利用者の声からは「第三者委員」に関しては、「知っている」とか「外から男性がきて、お話をしてくれる」などの話が聞かれた。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 仕事など日常の活動はやりがいが持てるか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
有効回答数19名のうち、18名の方が「はい」と意志表示し、「洗濯をやっているが、楽しい、疲れることはない」、「織り布裂きの仕事」、「パンづくり」、「織りをやっている、疲れることはありません」、「パンづくりと織りが楽しい」、「やりたいことは何でもできる」、「食品でジャムを作っている仕事をしている」、「ブルーベリージャムを作っていて、仕事は大変だけれど楽しいです」、「中の掃除をしていて大変ですが楽しいです」、「織り工房で毛糸を織っています、楽しいです」など、パン工房や食品加工工房などでの仕事の話が多く聞かれた。

2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか

はい	9人	どちらともいえない	9人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「はい」と、「どちらともいえない」が同数の9名で、コメントに、「もらった工賃で買い物をしている」、「工賃は決まった日にもらっていて、必要なものを買ったり、貯金もしている」、「お金もらいる、何か買う」、「工賃わかります」、「工賃もらえる、少ない」など、一方で、「わからない」との言葉も聞かれた。

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
有効回答数19名のうち、18名の方が「はい」と意志表示し、「仕事を教えてくれる」、「困ったことはありません、職員は何時も話をしてくれる」、「お話しできます」、「自分でちゃんと聞く、失敗した時は次に失敗しないように努力する」、「やけどしないように注意」などの声があった。

--	--	--	--	--	--	--	--

4. 施設の設備は安心して使えるか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「はい」が18名で、「あぶないことはない」、「どこもあぶないところはありません」、「火とガスに気をつけます」、「大丈夫」、「ケガやヤケドをしたことはない」などの声があるように、パン工房では大型パン焼き機など火気に関する注意をしながら仕事に打ち込んでいる様子が窺える。

5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	12人	どちらともいえない	4人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「はい」と意志表示した方が有効回答数19名の中で、12名(63%)、「いいえ」と意志表示した方も1名みられたが、利用者からは、「秘密ごとなどないです」、「内緒の話をして、誰にも言わない」、「秘密のお話をするが、誰にも言わないでくれる」などの声が聞かれた。

6. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	16人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
8割超の方が「はい」を選んでおり、「だいいじにしてくれる」、「職員は気持ちを分かっています」などの声が聞かれたのと、「皆親切ですが、施設がどう思っているかわかりません」とのコメントもあった。また、「やさしい」という言葉が多く聞かれた。

7. 職員の対応は丁寧か

はい	16人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
利用者からは、「親切です」、「丁寧です」、「乱暴な言葉は使いません、親切です」、「以前はそうでもなかったが、今は大丈夫」との声や、何名かの利用者からは、「名前で」、「さん」付けで呼んでくれる」との言葉が聞かれた。

8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	8人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「はい」と意志表示した方が、11名(6割弱)となっているが、コメントは、「目標は園芸です」、「いつも職員と話をしている」、「お仕事の話をしている」などの話が聞かれた。なかには、「あまり自信がないので、職員から自信を持つように言われた」との言葉もあるように、職員は日常的に利用者と話し合いをしている様子が窺える。しかし、この項目に関して、関心を示さない方もみられ、「無回答」が多かった。

9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】
個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか

はい	8人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
19名のうち、「説明があったと回答した方は、9名で、利用者からは、「説明はわかりやすかったか」ということよりも、「よく話をしてくれます」、「いつも何でも話をしてくれます」、「よく説明をしてくれます」などの話が聞かれた。

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】
サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	14人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「不満などありません」、「お仕事始めました」、「ズバズバ自分で言うようにしている」、「冬休みにお話している」、「言える」などのコメントや、不満や要望といったことに対して、「わからない」とのコメントもあった。

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	14人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特に不満や要望ということだけでなく、日常的に、「よく聞いてくれる」、「よくやってくれる」、「今はない」、「お仕事で困った時にスタッフさんにすぐ言える」などのコメントがあった。

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	10人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「はい」が計数的に低い項目であるが、利用者からは、「知っているし、相談したこともある」、「知ってますが、あまり相談はしません」、「施設の人に相談します」、「市役所に言う」、「外から男性が来て、お話をしている、優しく聞いてくれる」、「外部の人が来て、話をした」などの言葉があった。施設では玄関正面に第三者委員等相談に関する掲示や毎月、法人傘下の全利用者が集まる誕生会の日に、「いろいろ相談日」を設け職員が相談に応じている。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定

リーダーシップと意思決定

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

調布養護学校の親と教員有志が「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場をつくりたい」と願って「社会福祉法人にじの会」が結成されたもので、本年度で5年を迎えた。平成19年11月に就労支援施設「ワークショップハーモニー」が設立趣旨に基づいて設立され、法人のトータルケア支援体制が整ってきた。また、法人の基本方針と重点課題は理事会で決定されて、内容については管理職会議(常勤の役員、主任)で徹底がされ、事業計画策定の指針となっている。家族には施設家族連絡会で説明がされている。

理事会で決定された平成19年度の基本方針はにじの会の全施設が進むべき方向を示したもので、①自立と社会支援②良好な近隣関係による地域モデル③ワークショップハーモニーの設立で地域就労支援の場の確保④各事業の収支黒字化と新事業体系移行準備⑤支援能力の向上を図る、をあげている。管理職(施設長・主任)の役割は事業計画に記されており、さらに本年度、管理職の機能強化として施設長・主任等の具体的な権限・責任を明確化にしている。

理事会では基本方針や経営に関する重要事項が、常勤役員会では人事関連事項等が、毎週実施される管理職会議では基本的な運営事項が決定されている。また、基本的な運営事項は年度当初に策定された事業計画で詳細に決められており、中間で目標達成実績を総括し、今後の取り組みが見直しされている。また、重要な事項はフロア会議で全職員に、施設家族会で家族に説明がされており、地域住民には年4回配布されている法人の機関紙「にじの会だより」に掲載がされている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

施設として守るべき法・規範・倫理は法人の職員倫理規定に明示されている。特に、人権に関しては、8月と12月の全体会議で人権研修を実施している。具体的な事例をもとに、小グループで利用者に対する人権擁護に配慮して対等に接しているかなどを話し合い、人権擁護について理解を深めている。また、地域住民への情報開示は、法人の基本方針や各施設の行事、活動状況等が掲載された法人の機関紙「にじの会」に掲載し、施設長や職員等には職員利用者の研修等を通じて、人権意識を高めることとしている。

知的障害者の施設として、地域の障害者に関する個別の相談を随時受けており、施設の見学も希望する方には誰でも原則として受けており施設の状況を理解してもらっている。また、今年で3回目になる公開講座は「にじの会5年間のあゆみとこれからの障害者施設」をテーマとして開催された。公開講座の呼びかけはチラシの配布、三鷹市の広報紙への掲載、新聞社の記事等で告知、今回実施された講座では、三鷹市長をはじめ、関係者から参加した。

ボランティアの受入れについてはボランティア受入委員会が中心となって対応している。ボランティア活動への参加はにじの会後援会に参加する形を取っている。受入れの呼びかけは三鷹市のボランティアセンター、地元の住民協議会、にじの会後援会ホームページ、利用者の家族等に行っている。主なボランティアの内容は、週末整美活動ボランティア・製品仕上げボランティア・芸術活動等ボランティア・余暇活動ボランティア・行事等ボランティアがある。ボランティアの活動は地域との交流や障害者に対する啓発活動につながり、ボランティアも喜ぶ。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1	評点	A
い	標準項目	○ 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している ○ 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
...	A+の取り組み	

2-1-2	評点	A
の	標準項目	○ 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう努めている ○ 透明性を高めるために、地域の方の目にふれやすい方法(事業冒便り・広報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
...	A+の取り組み	

2-1-3	評点	A
...	標準項目	○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など) ○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修・講座等)を開催している
...	A+の取り組み	

2-1-4	評点	A
...	標準項目	○ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している ○ ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など) ○ ボランティアに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している
...	A+の取り組み	

2-1-5	標準項目	○ 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している ○ 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
...	A+の取り組み	

評点	A	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者及び家族の意見・要望・苦情等の意向を聞き取り、各施設の支援体制に反映して行く仕組みはできている。具体的には、利用者に対して職員の担当が決められて日常の個別状況把握に努めている。毎月全員が集まる誕生会の際に開催される「いろいろ相談室」ではいくつかの相談室が設けられ、利用者から苦情を聞き取り、解決にむけて取り組んでいる。家族は施設家族連絡会や懇談会で意向を述べる機会がつけられている。また、重要事項説明書では苦情等の申立先や苦情処理第三者委員(オンブズマン)が記載されて申し立てすることができる。

社会福祉法人「にじの会」の設立趣旨において、利用者及び家族の意向を取り入れ、多様な障害を持った利用者に対して多様な支援サービス環境を整えるために、地域でのトータル支援体制を確立するとされている。法人は周囲に住宅地や街並み等住民の日常生活がある中で、地域住民とともに暮らしを楽しむ施設を目指して、入所施設「大沢にじの里」を基本に、「未来工房にじ」等の通所施設、ケアホームを立ち上げた。そして、今年度、就労支援事業所「ワークショップハーモニー」を設立させ、地域でのトータル支援体制を確立することができた。

地域福祉の動向は三鷹市自立支援協議会及び知的障害者施設連絡会や近隣自治体の会議に参加して情報収集に努めており、地域の養護学校(都立養護学校、私立学園等)と実習生及び卒業生の受入れのため学校と密に連絡を取っている。また、福祉事業の動向については、全国的障害関係施設長会議等の研究大会に参加して動向の把握に努めている。これらの情報を分析、整理して新しい中期計画の策定に向けて準備を開始している。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A+
標準項目	 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	社会福祉法人「にじの会」の設立趣旨において、利用者及び家族の意向を取り入れ、多様な障害を持った利用者に対して多様な支援サービス環境を整えるために、地域でのトータル支援体制を確立するとされている。法人は周囲に住宅地や街並み等住民の日常生活がある中で、地域住民とともに暮らしを楽しむ施設を目指して、入所施設「大沢にじの里」を基本に、通所施設「未来工房にじ」等や「ケアホームにじ」を立ち上げた。そして、今年度、就労支援施設「ワークショップハーモニー」を設立させ、地域でのトータル支援体制を確立することができた。

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A
標準項目	 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

中期計画が求めているトータルケアの地域支援体制の構築に向けて、計画通り平成19年11月に就労支援事業所ワークショップハーモニーが開所された。設立に際して、一部近隣住民の反対運動にあったが、市役所との緊密な連携のもとで住民に理解を求めて開所することができた。パンや豆富、手作りハム等の食料品の製作販売や喫茶「ハーモニー」の併設は近隣に他の店舗がない中、地域住民に利用されている。社協でパンなど自主製品の販売を行ったり、駅伝大会や養護学校の文化祭でパンの販売を

理事会で決定された基本方針と利用者意向の実現や就労支援などの6つの重点課題に基づいて年度単位の事業計画が策定されている。まず、各部門や委員会で前年度の事業計画の総括を実施している。また、各職員から提出された改善点を事業計画に反映させ、予算や人員配置計画を加えた事業計画(案)の検討会を開催している。修正がある場合は再度部門や委員会で検討をし3月末に最終的に決

安全に対しては、発生した事故の内容を分析して再発防止に努めている。具体的な活動としては、安全委員会で「ひやり・はつと事例報告書」「事故報告書」「物損事故報告書」の内容の分類や発生時刻・場所・曜日・所属部門等を詳細に分析・整理して、再発防止策を策定している。分析内容の取り組みについては、年1回全職員が参加して開催される安全大会で報告がされている。また、安全委員会では、「今

[このページの一番上へ](#)

評点	A
標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している ○ 課題・計画を策定している ○ 年度単位の計画を策定している ○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

評点	A
標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている ○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている ○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策 ○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を
A+の取り組み	

評点	A+
標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している ○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参 ○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している ○ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら
A+の取り組み	平成16年10月から進めてきたトータルケアの地域支援体制の構築に向けて中期計画のひとつである就労支援事業所ワークショップハーモニーは、平成19年11月に計画通り開所された。設立に際して、一部近隣住民の反対はあったが、市役所との緊密な連携と入所施設の近隣住民アンケートで8割以上が「不安や迷惑を感じることはない」との回答で住民理解に力づけられ、開所することができ

評点	A
標準項目	○ 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している ○ 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している ○ 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している ○ 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
A+の取り組み	

標準項目		利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人が中心となって人事管理制度(職能人事考課・自己申告)が決められて公表されている。いずれも上司との面接により面接者との日評価内容のすり合わせを行っている。職能人事考課の目的は職能資格昇格者の決定と自己申告と併せて要員の適材適所を決めることにある。自己申告は①今年の具体的な目標を明確にする②本人の希望を聞き適材適所を図る③不満に思っている点を明確にすることにある。コア人材の適正な配置や定着は実現できているものの、新規職員の定着化へ向けた方策が期待される。

福祉業界において人材確保が厳しい中、人材の確保と育成が最重要な課題となっている。そのためには、労働条件の改善や職員の能力向上への取り組みが期待される。また、新人研修では内部研修のさらなる取り組み向上が望まれる。研修プログラムの中で、外部研修については全国又は地域の研究会や大会に出席、東京都社会福祉協議会が主催する研修に多く参加している。内部研修では、全職員が参加して開かれる全体会議で「自立支援法」や「人権について」の学習会を実施、その他フロアー会議や業務終了後に自主的に学習会を実施している。

職員のやる気と働きがいを向上させるために、人事評価制度において業績賞与や職能人事考課を取り入れている。業績の評価を実施する際、まず自己評価をして、上司との面接にて評価内容について調整を実施して職員の納得を得ている。また、表彰制度が実施されており、①勤続5年以上の優秀者②業務上有益な研究・実践を行った研究功労賞③法人や施設運営上で功績をあげた運営功労賞が対象となり、表彰委員会が検討のうえ、人事委員会に推薦し決定がされている。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A+
標準項目	☐ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	☐ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	職員のやる気と働きがいを向上させるために、人事評価制度において業績賞与や職能人事考課を取り入れている。業績の評価を実施する際、まず自己評価をして、上司との面接にて評価内容について調整を実施して職員の納得を得ている。また、新たに表彰制度が実施され、①勤続5年以上の優秀者②業務上有益な研究・実践を行った研究功労賞③法人や施設運営上で功績をあげた運営功労賞が対象となり、表彰委員会が検討のうえ、人事委員会に推薦し決定がされている。

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☐ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☐ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	☐ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賞金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	☐ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	☐ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	☐ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成18年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

情報の伝達は朝会にて職員に周知徹底がされている。また、日々の情報伝達は部門において業務連絡ノートが活用され、気づいたことや連絡したいことなどを記入している。毎週各フロアーの主任及びリーダーによる会議が開催され定期的に情報交換がおこなわれている。また、施設内のネットワーク(LAN)の設定が平成19年11月より法人内全箇所のパソコン(15台)が結ばれ、共有化ファイルのシステムが構築された。全職員が情報を閲覧することができ業務の効率化につながっている。

個人情報の保護に関しては、「利用者の個人情報の利用目的の通知及び第三者に対する提供に関する同意書」及び「施設内掲示・各種機関紙でのお名前と写真の掲示・掲載について」の書面にて、利用者及び家族に説明がなされ理解を得た上で同意を求めている。実習生やボランティアの活動において、事前に個人情報や利用者プライバシーの保護について説明し徹底を図っている。また、施設の見学者に対しても「入所者・通所者のプライバシー保守に関する誓約書」の同意を得ている。

このページの一番上へ

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
		収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
		保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み		

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A	
標準項目		事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
		個人情報の保護に関する規定を明示している
		開示請求に対する対応方法を明示している
		個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成18年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A ⁺
改善の成果	○中期計画(地域展開)に基づいた就労支援事業所ワークショップハーモニーを平成19年11月開設した。 ○管理職の機能強化として施設長・主任等の具体的な権限・責任を明確にした。 ○全員を8グループ(6名程度)にわけ、人権研修を実施した。 ○夏休み(海の日)全職員による安全大会を実施(ヒヤリハット、事故分析を中心に)した

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	○法人や施設運営上で功績をあげた運営功労賞が対象となり、表彰委員会が検討のうえ、人事委員会に推薦し決定がされている。 ○交代勤務手当の新設

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A ⁺
改善の成果	○養護学校が使用しているテキストで週1回社会のルール等の学習会を開催した ○法人内の全施設のネットワーク化(法人内LAN) ○各フロアーに、支援員・看護師等誰でも自由に書き込む「何でもノート」を作成 ○TEACCHプログラムの手法によるコミュニケーションツールの学習会を外部講師を招きの実施 ○社会生活力プログラムの実施 ○スタッフ業務マニュアルである「日中支援マニュアル」、昼食支援、外出支援と9つの工場の支援マニュアル(パン工房、豆腐工房、食品工房、手づくり工房、織り工房、紙工房等)を作成

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	○通所利用者の通所率向上による収益増 ○費用の削減(郵送費など) ○ショップにおける販売拡大

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A
改善の成果	○利用者アンケートの実施、希望旅行先など面接で利用者意向を把握 ○養護学校等からの実習生の受入を増やした ○家族とのコミュニケーション(施設家族会、懇親会、個別支援計画策定の際の面接、行事への参加等)回数を増加した

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

都心から西方に約18km、東京都のほぼ中央に位置する閑静な住宅街の一角に3階建ての「社会福祉法人にじの会」が運営する「知的障害者入所更生施設(大沢にじの里)定員45名・短期4名」と、併設の「知的障害者通所授産施設(未来工房にじ)定員25名」がある。その他にも、市内に「通所授産施設分場(未来工房にじアート)」や、グループホーム及び、昨年オープン就労支援事業所等をトータル的に分かり易く、利用者の利便に供するためホームページ並びにパンフレット等を活用している。また併設の喫茶ショップも広報の一役を果たしている。

ホームページには施設長挨拶、未来工房にじにじアートの特色、作業種目、年間行事、商品カタログが掲載されており、施設内やイベントの写真が多く視覚的にわかりやすいものとなっている。法人の機関誌「にじの会だより」と「未来工房にじだより」を発行して、利用者や家族、後援会、福祉施設等に配布している。また、近隣自治体の会議や委員会に参加し、積極的に報告する機会を設け、情報交換を図っている。併設するショップ「オー・ソレ・ミオ」にも店内に便りを置き、近隣には利用者と一緒にて600軒近くポステングして周囲の理解を図っている。

施設の見学に関しては、福祉事務所等の行政機関よりの問い合わせや養護学校や親の会、他の施設からの見学者が多く、施設長が随時対応し火曜日から木曜日の午前中説明案内をしている。見学希望者には事前に申込書を記入してもらい、施設の案内や作業の内容を行い更に職員との交流を利用者のプライバシーに配慮しながら行っている。特に養護学校の小・中学校の家族が将来を考えてのグループ見学が多く、毎月5～6件の見学希望に対応している。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

施設では、開設当初から成年後見人制度の利用を推奨しており、家族を中心にした後見人を全員選定している。入所時の契約の際には、必ず理事長(施設長含む)が家族・成年後見人と共に、重要事項説明書及び補足説明書、契約書をもとに説明をしている。施設長が利用者や家族の個別の状況を勘案しながら重要事項を説明している。また社会状況に応じてのサービス状況や自己負担金の増加等は、年4回行われる施設家族連絡会を通じて詳細に説明し、同意を得るように図っている。

利用開始時には、利用申込書、健康医療調査表、個別面談記録、前施設や養護学校からの情報を得て、環境変化に応じられるように配慮をしている。利用開始前には本人が「実習計画依頼書」に目標を書き、実習担当職員が関わり、一週間の体験実習を行っている。未来工房には就労継続事業の製造グループと生活介護事業の生活作業グループがあり、養護学校の窓口の先生との連絡を密にしてどのような支援が必要か検討して開始している。

利用開始直後は、今までの生活環境が変わり、新しい生活リズムに慣れるために希望する作業を1ヶ月程度実習している。その結果利用者の適応にあった作業を選んでストレスにならないように、ゆとりある支援の提供を心がけている。また、サービス終了の利用者には、本人、家族と面談や電話で相談したりと十分に話し合っ

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	 サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	 サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	 サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	 サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	 サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	 サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成18年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録



個別状況に応じた計画策定・記録



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

個別支援計画の策定は、ケース担当職員が利用者、家族と面談しアセスメント表に基づく課題の確認と把握を行い、看護師や栄養士の意見も参考にして原案を作成し協議する。利用者には、言葉で理解できる方には口頭で、言語によるコミュニケーションの難しい利用者には、必要に応じてカードや写真を使って説明を行っている。半期に一度中間見直しを行う。また、日中活動スタッフ・音楽担当・医療スタッフ等関係者が参加して行う「ケース会議」を必ず年1回、必要に応じ随時開催している。毎年3月の施設家族連絡会に原案送付し当日最終調整している。

利用者に関する情報や記録は基本的にパソコン上で行っている。施設として利用者の様子を羅列的に記載するのではなく、個別支援計画に沿った記録をすることを徹底している。そうしたことが容易にできるパソコンソフトを導入しており、個別支援計画ごとの整理や閲覧ができるようになっているため、一人ひとりの新たな課題などの発見にも役立っている。パソコン上の情報は施設内及び分場施設ともLANで接続しており、記録化と情報の共有化が図られているため、利用者一人ひとりにきめ細かな支援が行われている。

パソコン上のシステムで個別支援計画や生活記録を一括管理しネットワーク化され、職員は個人のパスワードを入力すれば閲覧できるようになっている。排泄記録表や通院報告書は、個人ファイルに保管され、プライバシーに配慮している。各フロアーに、支援スタッフ・医療スタッフが自由に書き込める「何でもノート」を日々の連絡帳として活用する。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	○ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	○ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	○ 計画を緊急に変更する場合のしきりを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	○ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A
標準項目	○ 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○ 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

法人の「職員倫理規定」、「就業規則」に、利用者のプライバシーの保護や個人の尊厳の尊重が明示されており周知されている。新人職員は、人権に関する研修は必修で全員受講している。しかし日常の支援の中で具体的にどの言動・行動が人権侵害に当たるのかの振り返りなどが必ずしも十分とは言えないこともあるので、今年は、全体研修会でシリーズで取り上げ人権に対する意識付けを行った。また、利用者の身体に傷等があった場合は、見つけたらすぐ連絡をして利用者に怪我等の原因を聞き解明に取り組んでいる。

利用者の個人情報保護については、サービス利用時に「個人情報保護に関する基本方針」を説明し、利用目的の通知・第三者への提供に関しては同意書を家族(後見人)を得ている。施設の機関紙や行事等の写真の掲載についても、「施設内掲示・掲載について」の書面にて承諾を得ている。またボランティア受け入れ委員会が「ボランティアの皆様にご理解いただきたいこと」を配り理解を得て、実習生にもは利用者プライバシーの保護について説明し徹底を図っている。施設の見学者に対しても「通所者のプライバシー保守に関する誓約書」の同意を得ている。

言語によるコミュニケーションが難しい利用者にとって自己決定を表すことは大変に重要な事だと施設では認識しており、絵カードや写真カードを使用し視覚的アプローチや環境の構築化を図り自己決定を助けている。支援スキルを高め、コミュニケーションを深めるために入所職員と合同でプロジェクトを組織し、施設内で研究・実施して支援の充実に努めている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	○ 利用者に関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、利用者の同意を得るようにしている
	○ 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	○ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	○ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	○ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成18年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

法人のマニュアル委員会に未来工房の職員が参加して作成したマニュアルが整備してある。そのマニュアルは作ったままのためマニュアル委員会が点検して見直しに繋げている。特に新任職員がマニュアル通り実践して、支援と不具合の箇所の安全面のマニュアルの見直しを実施している。マニュアルは常に職員が閲覧できるようにスタッフルームに配備している。

法人は多種の外部研修に職員に指示したり参加希望を募り多くの職員が年間を通じて参加している。特に新人の基本的支援や流通関係の研修に参加している。その研修の報告は職員全体会でしている。しかし、職員の入れ替わりが多いため聞いていない事項や、常に基本的な指導や助言が必要でリーダー、主任の力量が必要であり、そのために内部研修を行うことを考えている。

19年の基本方針には「利用者の安全を確保した上で自立と社会参加への支援を進める。」としている。安全マニュアルの徹底により安全性の向上を図り、危険因子を即座に分析・判断し事故を防いでいる。更に安全な作業場の提供のために、気持ちよく作業に取り組めるように整理整頓に心がけ清潔な工房を目指している。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A ⁺	
標準項目		手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
		手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
		提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを点検している
		職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	・未来工房にじの「日中支援マニュアル」はスタッフ業務マニュアル、昼食支援、外出支援と9つの工房の支援マニュアル(パン工房、豆腐工房、食品工房、手づくり工房、織り工房、紙工房等)がある。工房の作業手順書では、時間ごとに作業への支援とその留意事項を掲載して備考には伝達やチェックを記入している。このマニュアルにより安定した製品づくりと、一般市場の競争に耐えうる商品となっている。新人職員には全員にマニュアルを渡して、マニュアル通り実践して、不具合な所は見直しをして実践している。	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A	
標準項目		提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
		提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
		職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

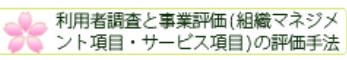
評点	A	
標準項目		打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
		職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
		職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
		職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
		職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施

 サービスの実施



1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

個別支援計画に基づき「生活支援プラン書」で課題項目を細分化してプラン内容を明確にして支援にあたっている。その計画に沿った支援ができていのかどうか「実績中間報告書」で達成実績内容と今後の課題を打ち出して、課題に向けて取り組んでいる。利用者に応じて特性を生かした個別支援は、作業の担当を利用者の立候補で決定して、利用者が責任を持って行っている。その個々の特性を、利用者の中で認め合えるように配慮した声かけをしている。ただ、一日を通じた反省の機会がもてていないので、今後は一日の振り返りの機会を設けていく必要がある。

言語でのコミュニケーションが困難な利用者には、にじの会独自の方法で行っている。その方法は写真や絵、カードを使用して視覚的に分かりやすく個別に合わせて行っている。例えば、作業グループ毎に当日のメンバーの顔写真と作業内容等を写真と絵で示して説明している。常にコミュニケーションの取りかたや一人ひとりに応じた支援の方法の研究をコミュニケーションプロジェクトで行い能力向上に努めている。

利用者の自立生活の支援は、社会生活力を身につけるために、養護学校が使用しているテキストで週1回社会のルール等の学習会を開催した。だが、利用者にはあまり好評ではないため、今後は社会生活力プロジェクトで取り組んだ学習内容についての理解度を高めるために、必要に応じて社会ルール等のおさらいができる体制を考えている。また、リラックスできるセラピー室を設置して心安らぐ居場所を提供している。更に在宅の障がい者児のための相談、療育、指導等を行う市のセンターとの連携も取り精神的な面でのサポートも考えている。

評点	A ⁺
標準項目	 個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	・19年度基本方針に利用者の安全を確保した上で、自立と社会参加への支援を掲げている。その基本方針に基づいて、社会生活プロジェクトを中心に社会的ルールの意識付けや「社会生活をしていく能力を身につける」を目標にしている。外部販売や購買活動の実施、個人及び小グループでの外出により、個々の社会生活力が身につく支援に取り組んでいる。更に「あいさつ・言葉遣いの心得」にて、挨拶の姿勢や挨拶の意義、話し方の基本や聞き方の基本を謳って、活動の中で「挨拶」を重視している。

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

作業の種目は就労継続的事業(パン製造、豆腐製造、食品加工製造、織物製作)と生活介護的事業(外作業グループ、整美グループ、売店・喫茶での販売)がある。専門スタッフが利用者の適正を配慮して作業支援をしている。また駅周辺の街中にある分場「にじアート」には紙製品製作があり、大勢の「大沢にじの里」の入所者が通い、通所者と一緒に活動している。

利用者への作業工賃が発生する作業は、就業就労的事業の(パン製造、豆腐製造、食品加工製造、織物製作)には工賃・賞与を支給している。工賃の査定は毎月の個別の作業評価表(作業の成果、取組・勤務状況、出勤率)で評価を行い、評価には作業評価手引書に沿った手順で行っている。また、生活支援には工賃の対象とならない事を、本人と家族には担当者から十分に話をして理解を得ている。「未来工房にじ」は通所と入所の利用者が日中活動と一緒にする事により生活の幅が広がっている。

利用者の働く意欲と作業能力の向上を得られるために、一階に喫茶・売店「オー・ソレ・ミオ」をオープンして利用者の手作り(パン、ジャム、織物、豆腐、季節の草花・腐葉土等)を販売している。更にホームページで商品カタログを掲載して商品の注文販売を行い宅配便での発送もして販売・生産の拡大に力を注いでいる。また、商品への技術の向上や品質の一定化を図り、更に商品開発には各作業グループとの連携を図り製品開発に取り組んでいる。それらの製品の定期販売活動も行い地域に広めているが、販売に行く利用者を育てる事も必要と思われる。

評点	A ⁺
標準項目	 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	 利用者が活動しやすい環境を整えている
	 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
	 工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている

		就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み	・授産活動の食品加工製造において、高級ジャムへのイメージの定着化に向けて、製造技術の向上による品質の安定化を図り、商品開発に取り組んでいる。無農薬で旬の果物を効率よく発注ができていますので、常に6〜7品目のジャムの生産ができています。商品には産地表示をして安全性のアピールを行い、器ラベルのデザインも変更するなど高品質の商品作りに取り組んでいる。また、園芸グループで育てたバジルで作ったソースを新商品として開発した。	

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

食事は委託業者が調理し、法人の栄養士が献立を作成している。お互いの連携はタ札や連絡ノート等の活用でスムーズに伝わる様になっている。健康でおいしい食事の提供の取り組みを行い、看護師と連携して生活習慣病を考慮した個々の食事のコントロールを本人、家族と十分な話し合いをして実施している。一日のエネルギーは約1,800キロカロリーだが利用者の状態により主食の量を6割から8割に抑えて健康に配慮している。また、食事形態も刻み食、減塩食等6種類の形態とアレルギー反応者、好き嫌いな物にも応じた対応をしている。

毎月の献立委員会を10名の委員と委託業者が入って、①検査の結果等での味付け、基本設定条件や特別メニューの見直し②特別メニューの企画（年間行事、月行事等）を行い献立案を担当している。月1回の特別食は利用者の誕生日に希望料理等から提供している。年1回「食事アンケート」を行って集計分析をして、意見は参考にしてすぐに対応できる事は実施するようにしている。食材はそれぞれの工房（例えば、パン食の時はパン工房の製品等）を使用して意識を高めている。また、施設家族連絡会で年2回の試食会を行い家族に事業所の味を提供している。

食事の安全には十分に気を配り、特に食中毒の防止には最善を尽くしている。厨房での衛生点検表と日々の掃除の強化を図り、高圧洗浄機での配管洗浄や年2回の害虫駆除を行い衛生面での改善に取り組んでいる。ノロウィルスの対応にも衛生管理の徹底と、食材を含めた献立の作成を検討している。にじアート（分場）の食事は入所施設（大沢にじの里）から運んで、分場で盛り付けと配膳をしている。ただ、食べるまでの時間がかかるので、冷保温の工夫が必要と思われる。

評点	A	
標準項目		利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
		利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
		食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

法人は4ヶ所の作業所でトータルサポートを目指した日中活動に取り組んでいる。19年度の事業計画には「身辺自立の拡大」を掲げている。日中活動において利用者自身ができることを増やし、掃除や片付け作業の参加を目標に取り組み実施中である。利用者一人ひとりの状態に応じた支援には、作業内容を考慮したり余暇活動を取り入れたりして利用者のペースで行っている。特に「にじアート」は入所施設「にじの里」から運ばれた昼食の準備は、利用者が職員と一緒に配膳を行い協力し合った和やかな雰囲気の中で自立に向けた支援が行われている。

利用者は自宅や同法人の入所施設・グループホームから通っている。自宅からの利用者はバスや徒歩などで来所しているが、利用者の体調によっては車による送迎も行っている。それぞれの工房に入るために着替えをするなど、利用者自身の身の回りのことは大部分でできるが、利用者の中にはトイレ誘導が必要な人もいる。また、日々の状態の把握は家庭との「連絡帳」や入所・グループホームの職員間での「申し送り書」で連絡しあっている。

評点	A	
標準項目		利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
		必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

利用者の健康状態は年1回の定期健康診断、毎月の体重測定を行い把握している。施設「にじの里」での嘱託医師の内科医は週1回、精神科医月1回、歯科医月1回の訪問による相談や健康チェック、必要に応じて歯科医は治療を行い通所授産施設の利用者も診てもらうことができる。また、看護師による応急処置で早期治療に繋がっている。協力医療病院は近隣の大学付属病院であり、施設の看護師等と協力医療機関との密な連携が取られている。そのため緊急時にも速やかな対応での体制が整っており安心して活動ができています。

施設の医務室に看護師2名がおり、利用者の通院の付き添いをするなど、1ヶ月の通院受診予定を組み「通院報告書」に診察結果を必ず記載して把握している。また、利用者の疾患の早期発見や早期治療による症状の悪化を防ぐために年3回「個別栄養所要量計算表」

で一人ひとりの栄養所要量を出すことで食生活改善を栄養士と協力して取り組み健康管理に繋げている。日々の状況を家族には連絡ノードで行い自宅管理ができるように家族に会って話をしたり相談に応じている。精神面での不安な利用者への対応は家族から直接の電話に応じた取り組みを行っている。

服薬管理は利用者から1週間分預かり自己管理はしていない。服薬ミスをなくすために個人の薬袋に①看護師が薬の準備②職員が薬の内容を確認③職員が服薬④職員が忘薬チェック⑤看護師が再度薬袋の中を確認して5重のチェック体制で行っている。そのチェックを「投薬情報確認表」に終了のチェックと担当した職員のサインをしている。一般的に通所授産施設には看護師が常駐していないが、入所施設と併設のため医務室との連携が取れ看護師の救急対応や健康管理のアドバイスを受けられる。

評点	A ⁺	
標準項目		健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
		必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
		服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
		利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	・医務室の2名の看護師が利用者の病状の悪化を防ぐために年3回「個別栄養所要量計算表」で一人ひとりの栄養所要量を出すことで栄養改善に取り組み早期発見や早期治療に繋げている。また、自宅管理ができるように家族に会って相談や話をしたり、精神面での不安な利用者の家族への相談も常時行って、安心な生活が送れるように支援に努めている。一般的に通所授産施設には看護師が常駐していないが、入所施設と併設のため医務室との連携が取れ看護師の救急対応や健康管理のアドバイスを受けられる。	

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

未来工房にじでは、入所施設にじの里と合同で多彩な行事を催している。地域行事の(夏まつり、にじの会まつり、文化行事)利用者のための内部行事(一泊旅行、誕生会とイベント等)利用者も参加する各種行事(市民駅伝、出店イベント等)をそれぞれの委員会で企画して行っている。一泊旅行は春に行い福祉バスを借りて4コースの中から選ぶ事ができ、参加も自由参加になっている。日帰り旅行は秋に行い少人数のグループでの活動で有意義な外出になっている。今後は行事等の企画にも利用者が加わることが期待される。

日々の生活には朝会・日中活動・昼食・帰りの会をきちんと定めた「作業タイムテーブル」があり、社会性を身につけるために、朝会や帰りの会で司会等を利用者自身がローテーションを組んで行っている。月1回の誕生会には「いろいろな相談日」を設け、利用者の苦情や悩みを相談員が応じている。心身のリフレッシュと健康維持促進には、作業の疲れを取るための運動や公園への散歩を行っているが、さらに余暇、休息と運動を上手に組み合わせたプログラムの提供を考えている。分場にじアートでは、音楽を組み合わせた運動をしている。

廊下や食堂の清掃は利用者の整美グループが職員と一緒に常に清潔保持に努めている。特に居心地の良い環境になるようにいろんな場所に工夫されている。特に全てのトイレは車椅子が入る広さになっており臭いが出ない配慮した構造になっている。ダイニングにじ(食堂)を利用者間の交流の場としている。また、法人傘下の多くの施設の利用者・職員が一同に会して行う、毎月の誕生会、歓迎会、忘年会、新年会、クリスマス会などを行い職員とも親睦を図っている。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

19年度の事業計画において、障害者自立支援法の中で軽度の利用者にはそれぞれの条件に応じた就労の場として、就労能力の高い利用者には、一般就労移行支援事業や就労継続A型(雇用型)の説明を行い書類を出して利用者、家族に希望を聞いている。その結果行きたい利用者の希望を尊重して家族と面談した上、決定している。通所の家族も段々高齢化になり次へのステップ(入所など)を考えているが、現状では困難な状況であり今後の課題となっている。

年4回の施設家族連絡会があり、制度についての説明を行い意見や要望を聞いている。その内の2回は懇談会を行い、日中活動の様子をビデオや写真で状況を説明している。この方法が話や資料よりも状況が分かりやすく家族からの評判がとても良い。その連絡会で、日頃利用者が食べている昼食の試食会を兼ねて行い、アンケート結果を家族に報告して理解を深めている。

「未来工房にじだより」で月の行事予定と前月の報告を掲載して家族に配布している。日々の状況や支援内容、さらに健康管理面においては、入所施設の看護師が情報を「連絡帳」に記入して家族と連携を取っている。必要によっては直接家族に会い相談や家庭での生活環境の見直し等を提案している。また、家族には「にじの会」主催の地域行事の参加や手伝いの協力を得ている。

--	--

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

19年度の重点課題として「地域との交流を広げるために文化行事、公開講座、まつり等の交流の継続」を掲げている。その地域に法人会報「にじの会だより」と「第三者評価の結果報告書」を利用者と職員がポスティングで配布をしている。地域向けの行事の夏まつり、にじの会まつり等の開催には、地域にチラシを配布して町内掲示板にポスターを貼り近隣に挨拶等を行い、地域の方々の大勢の参加により交流を図っている。更に施設の入り口の掲示板に施設の会報を貼り地域へ情報の公開を行っている。

地域の多くのイベントに参加している。第1回から参加の恒例市民駅伝には、チームを組み利用者と伴奏者、利用者の家族が参加して完走をしている。また、近隣のコミュニティセンターで音楽祭に利用者が「よさこいソーラン」を踊ったり、芸術文化センターのピアノ発表会に参加して地域に溶け込んでいる。また、地域の社会資源の活用は、コミュニティセンターの図書館の利用や月1回福祉体育館を利用してトランポリンを行っている。

地域や関係機関等への啓発活動を行い、毎年一回テーマを決めて公開講座（今件は5年間の歩みとこれからの障害福祉の講演）を行っている。案内はチラシや市の広報誌、一般の新聞紙での掲載で多くの参加者があった。また、行政の連携体制は19年度からスタートの自立支援協議会で3ヶ月に1度行い情報交換になっている。地域のネットワーク体制は就労支援ネットワークに参画している。地域のボランティアは施設の行事にコーラス、オカリナ等の参加で利用者との交流になっている。更に利用者のサポートとして行事の手伝いや織物の加工を担っている。

評点	A	
標準項目		地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
		必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003~2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.